

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成28年11月11日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻井昭雄様

所属部局・研究科 医学研究科

職名・学年 修士課程2年

氏名 高嶺恵理子

助成の種類	平成28年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	アメリカ人類遺伝学会第66回大会		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	Can our manga cartoon, as a medium for promoting family health history and human genetics to the public, cause anxiety of learning their own family health history?		
開催場所	カナダ バンクーバー		
渡航期間	平成28年10月16日 ～ 平成28年10月24日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	250,000円	
	使用した助成金額	250,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	渡航費	79,700円
		学会参加費	34,775円
		ポスター印刷代	8,924円
eTA申請料		561円	
宿泊費一部		126,040円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。採択後は迅速に変更申請等にも対応して頂きとても助かりました。研究者の中には、意欲はあっても金銭面を理由に海外での学会発表を断念する方もいると思うので、今後とも研究者へのサポートを続けて頂けると幸いです。どうもありがとうございました。心より感謝申し上げます。		

■大会の概要

大会名：第 66 回アメリカ人類遺伝学会

開催場所：カナダ・バンクーバー

開催期間：2016 年 10 月 18～22 日

■報告概要

当研究室（遺伝医療学）では昨年度、ヒト遺伝について一般の方が親しみを持って理解できるように「家族歴を知ろう！」というマンガ教材を作成いたしました。その後のパイロット研究で、マンガ教材の有用性が分かったのと同時に、家族歴（家族の健康情報）を知ることによる不安を感じる人が多くいることが分かりました。しかし、その不安の詳細は不明でした。そこで、今年、ながはま 0 次予防コホートの新規参加者約 550 名にご協力いただき、家族歴を知ることによる不安の詳細についてアンケートを使って調査し、その内容を今回、ポスターにて発表いたしました。

家族歴を知ることによる不安の詳細として過半数が身体的不安（自分、親、きょうだい在家系内にある病気を発症するかもしれないなど）を感じていることが分かりました。その一方で、心理社会的不安（結婚や保険加入、情報の漏洩の心配など）は大多数の方があまり感じていないことも分かりました。また、家族歴を知ることによる不安を感じたときに、不安を軽減させるために正しい情報を知りたいと考えている人は全体の 75% に及びました。更に、家族歴を知って不安を感じた場合に、その不安を軽減させるためにとり得る具体的な手段についても同アンケートで調査しました。特に多かった回答として「健康診断を受ける」や「医師の診療を受ける」があげられましたが、マンガ教材では家族歴を知ることによる不安を感じた場合、遺伝カウンセリングへ行くことが対処法の一つとして紹介されているので、今回、「遺伝カウンセリングを受ける」という回答を選んだ方に注目し、発表しました。マンガ教材を読む前までは 92% の人が遺伝カウンセリングのことを知らなかったと答えましたが、教材を読んだ後は、家族歴を知ったときの不安の対処法として 21% の人が「遺伝カウンセリングを受ける」ことを選んでおり、教材が遺伝カウンセリングの周知にも役立ったことが分かりました。この研究から、遺伝カウンセリングの周知度の低さが分かり、同時に、どのようにその周知度を上げていくのかということが課題として浮かび上がってきました。

上記の内容をポスターにまとめたところ、ポスター発表の時間には複数名から声をかけていただきました。健康管理のために家族歴を知ることが推進する研究者が多い中、家族歴を知ることによる不安について調べるといった異なった視点での研究に興味深いというコメントを数人からいただきました。また、ディスカッションを通して、研究に対する新しい視点から意見をもらうことができ、有意義な時間になりました。

更に、この発表に向けてマンガ教材の英語版（仮）を作成いたしました。今後、英訳版の完成に向けて意見をいただけるように、英語版（仮）をポスターの前にて配布しました。

他の学会参加者による発表の一つに、アメリカ内での遺伝教育の取り組みについて発表がありました。今、私自身が遺伝教育に携わっているので、海外ではどのような姿勢でどのような取り組みをしているのかという視点から発表を拝見しておりました。アメリカでは、遺伝教育の取り組みを全米に広げようとしており、その詳細や展望を聞くことができ、刺激的でかつ勉強になりました。また、一般市民だけでなく、医療者に対しても遺伝についての教育を行なっている活動も見られました。海外での動きを参考にしつつ、今自分の周りにある環境でどのような遺伝教育活動が行えるのかということについても考えるいい機会になりました。

今回の参加を通して、海外の研究者の知見や研究に対する姿勢を肌で感じることができ、とても貴重な経験となりました。この研究を進めるにあたり、ご協力頂いたゲノム医学センターの関係者、当研究室の関係者に深く感謝の意を申し上げますと共に、学会参加において金銭面からご支援くださった公益財団法人京都大学教育研究振興財団にも心より感謝申し上げます。この場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。